

教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	兵庫県立 和田山特別支援学校 職・氏名 教諭 西谷 淳一	研究チーム名 (情報教育推進チーム)
-----------------	---------------------------------	-------------------------

研究テーマ分類番号 (8)

(1)研究テーマ
児童生徒の障害の実態に応じた情報教育の推進について
(2)研究経過及び具体的な取組
<p>< 4月・5月 ></p> <p>情報の授業等を通じて、生徒の情報機器活用能力の実態把握を行うとともに、生徒自身がどのような情報器機活用能力を身に付けたいのかを調査した。</p> <p>実態把握内容</p> <p>ワープロソフトでの平仮名50音打ちのスピード計測や簡単な単語入力、印刷等</p> <p>調査内容</p> <p>メール機能やファックス機能の活用、卒業後就労時等に役立てること</p> <p>成果と課題</p> <p>卒業後、仕事に就いた時に役立つ技術（メールやファックス機能）や、普段の生活の中でできるようになりたいと思うこと（画像の閲覧、インターネット利用、音楽データの活用等）を調査すると、生徒から様々なニーズがでた。両手でキーボード操作やマウス操作を行う生徒、片手の指一本で入力を行う生徒、タッチパネルを利用する生徒など、操作活用方法における実態は様々であったが、自分の実情に合った方法で器機を活用することができた。50音の打ち込みや文書入力練習などの課題を引き続き行い、個々の技術向上も図っていく。</p> <p>< 6・7月 ></p> <p>情報の授業等で、入力スピードの上達を図るとともに、ワープロソフトの基本的な操作方法を学習し、定着を図った。</p> <p>主な学習内容</p> <p>フォントの変換方法、ページ設定方法、印刷方法、保存方法、電子メールの送受信、ファックス送信方法、インターネットを利用しての情報収集及び情報活用について等</p> <p>成果と課題</p> <p>タッチパネルに触れることで、コンピュータを操作できる喜びを味わったり、USBフラッシュメモリ等に自分が作成したデータを保存して持ち歩き、いろいろな場所で文書の作成や保存をしたりと、生徒の実態に応じたコンピュータの活用ができた。また、情報の授業以外の場面でもコンピュータを活用し、学習に取り組む場面が増えてきた。今後も生徒一人一人の目標を新たに設定し、その目標達成に必要なコンピュータ活用能力の向上および定着を図ることが重要である。</p>

< 9 ~ 11月 >

情報の授業や学習活動でコンピュータに触れ、その生徒の実態や目的にあった周辺器機の選定を行うとともに、新たな操作方法の習得・定着を目指した。

主な学習内容

ワープロソフトでの表の挿入や情報入力、画像の挿入、表計算ソフトを用いてのデータ入力・グラフの挿入

成果と課題

新たな技術の練習や獲得により、生徒が達成感を覚え、さらに意欲的に授業に取り組めるようになってきた。今後は、生徒の身体の実態に合わせた拡大文字キーボードやトラックボール、タッチパネル、音声入力ソフト等の周辺器機の選定や導入を進めていく。聴覚優位、視覚優位など実態が様々であるので、それぞれの生徒が主体的に活動に取り組めるような環境設定や課題設定を検討していく。